

医師会病院
虹の事業所
訪問看護ステーション
訪問看護支援事業所
居宅介護支援事業所
グループホーム虹の丘
養護老人ホームなぎさ園
臨床検査センター

大島郡医師会だより

No.104 2025.1月号

発行
大島郡医師会
奄美市名瀬塩浜町3-10
TEL0997-52-0598
FAX0997-54-0597
印刷 南海日日新聞社



令和7年、新年の辞

大島郡医師会

会長 稲源一郎

賀春
お健やかに新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

今年の十二支は6番目の「巳」、
「へび」です。「巳」の漢字は「蛇」
の略語。

蛇は脱皮することから、復活
と再生することより、不老長寿
強い生命力・誕生を意味し、何
やら医師としても気にかかる存
在です。この奄美にはハブがい
ます。ハブは漢字では「波布」、
「飯匙情」と書きますが、「巳」
の略語とは違い、「波布」は歌
舞伎で使われる波を描いた布で、
波の形が「ハブ」に似ていたか
らだと思えます。「飯匙」は「し
ゃもじ」のことで、ハブの頭の形
からついたようです。神の使い、
財を成すなどのいい伝えもあり
ます。家の裏の川にハブの脱皮
がよくありました。財布に脱皮
を忍ばせるとお金が貯まる知恵



を持ち合わせない子供、だったの
で、財布にお土産屋さんで買っ
た「脱皮」をしまったのは、色
気づいた大人になってから。ご
利益を受けるには遅かったよう
です。

むしろ「蛇」は医師となつて
から気になる存在となりました。
それはギリシャ神話の名医・医
神であるアスクレーピオスの杖
に絡みついている蛇です。日本
医師会のロゴマーク、鹿児島県
医師会のロゴマークにも蛇が描
かれています。世界的にも医療
に関係する団体のロゴマークに
杖・蛇が描かれています。

大学で「ヒポクラテスの誓い」
の写本を何度も目にしていまし
たが、誓いの意味する深い考察
を消化にすることなどできず、
古希を迎える年になり、薄っす
らとですが、理解ができていた
とは言えないまでも、感じ取れ
るようになりました。アスクレー
ピオスはアポロンの子供であり、
ヒポクラテスはその末裔の説が
あります。

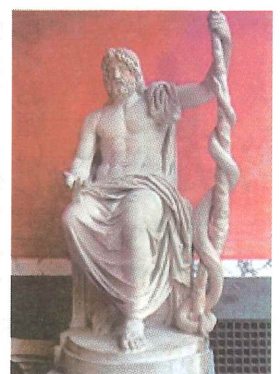
2025年問題は団塊の世代

※角川新字源より



が後期高齢者である75歳を迎え、
支えられる高齢者が増え、支え
る生産年齢人口が減少する問題
です。次は2040年問題に向け
た地域作りが求められています。
団塊ジュニア（昭和46年〜49年
生まれ）が75歳を迎える年です。
2040年になると奄美では支
えられる高齢者は減少しますが、
支える生産年齢人口（15歳〜64
歳）の減少が問題となります。介
護者が少なくなり、終の棲家と
して住み慣れた地域での生活が
困難となります。医療に関して
は、若干の地域差はありますが、
奄美全体としては今後の人口減
少に伴い外来、入院患者ともに
2030年までは増加しますが、
以降は外来患者、入院患者とも
に減少すると推測されています。

必要があります。中核医療機関
である県立大島病院との連携を
取ることにより、医師としての
専門性の確保・維持に研鑽しつづ、
地域医療に携わる医師としての
充実を得る喜びを提供できる地
域にしたいと考えています。



一方、住み慣れた地域で、自
分らしい暮らしを続け、終の棲
家とするには、本人・家族の心
構えが必要です。地域包括ケア
システムの基盤となるのは植木
鉢の図にある「本人の選択と本
人・家族の心構え」です。その
ためには「人生会議（ACP /
Advance Care Planning）」を重
ねることです。1948年の世
界医師会総会で「ジュネーブ宣
言」が発せられ、ヒポクラテス
宣言が公式化されました。その後
何度か改訂され2017年には
Patient autonomy（患者の自己
決定権）が加わり、現在の人生会
議（ACP）につながっています。
そのように「巳年」は脱皮し、
2040年に向けた新たな出発
の年です。ACPを普及させ、地
域包括システムを構築すべく大
島郡医師会は邁進していきます。



新年を迎えて

大島郡医師会病院

院長 満 純 孝

令和7年が明けました。

去年は元日早々能登半島地震が起きた。翌日には羽田空港で日本航空機と海上保安庁の航空機が滑走路で衝突し多難な1年を予感させました。海上保安庁は6人中5人が亡くなりましたが日本航空機は乗務員の誘導により379人全員が無事に脱出できました。医師会病院でも毎年2回火災訓練を行っています。体の不自由な患者さんを全員無事に避難させるための工夫や、何より火災を起こさないように注意しています。能登半島では9月にも豪雨災害が起き多数の死傷者

や家屋の被害が出て踏んだり蹴ったりでした。

毎年のように起きる自然災害ですが去年は猛暑でした。日本全国で毎日のように真夏日が続きましたが35℃以上の猛暑日もありました。奄美でも7年ぶりに猛暑日が観測され11月中旬まで夏が続いているようでした。奄美は鹿児島より南部に位置していますが周りを海に囲まれているため内陸部に比べ気温が上がりやすく、暑い中パリオリンピックが開催され日本も20個の金メダルを獲得しましたが、多すぎて全部は憶えていません。パラリンピックでも14個の金メダルを獲得しましたが、あまり馴染みのな

い競技などもありこちらもよく憶えています。

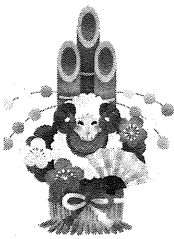
政治の世界では政治資金問題、裏金問題などで相変わらずもめています。総理大臣も岸田首相から石破首相に代りましたが衆議院選挙では久しぶりの少数与党になり政権運営が大変なよう。アメリカも大統領選挙でトランプ元大統領が再選されこちらも先行き不透明です。健康問題では、小林製薬の紅麴を原料とするサプリメントが原因と思われる健康被害があり死者も出ました。これは以前の話題だと思っていました。去年発売した問題でした。あらためてサプリメントには気を付けた方が良くと思います。

ムラン54本・盗塁59個といずれも50を超える「50・50」を達成し連日テレビで放映されていました。将棋の8大タイトルを独占していた藤井聡太8冠が6月に叡王戦に敗れ7冠になりました。12月に指宿温泉で竜王戦があり藤井聡太竜王が4連覇して7冠を守りました。県内であったため地元テレビなどでは盛んに放映されていました。

去年も世界情勢は混沌として各地で戦争が続いています。ソ連は核兵器を使う可能性をほのめかしています。そんな中、日本被団協（日本原水爆被害者団体協議会）がノーベル平和賞を受賞しました。核兵器の廃絶を訴え続けてきた活動が評価されました。「核兵器も戦争もない世界の人間社会を求めて共に頑張りましょう」と訴えています。

医師会病院でも、理念である「地域の求める優れた全人的医療」を提供すべく3年前に病棟再編を行いました。『回復期リハビリテーション病棟』を作りました。脳卒中や骨折後のリハビリ、あるいは肺炎などで寝込み

体力が落ちた患者さんのリハビリなどを重点的に行います。また、『療養病棟』ではご家族が結婚式や法事などで島を離れ、家を留守にするとき、旅行で島を離れるときなどに患者さんを一時的に入院させる「レスパイト入院」も行なっています。島を離れなくても患者さんの世話をされた時に患者さんを入院させるのも「レスパイト入院」として受け入れ、ご家族が疲弊しないようなお手伝いもしています。必要があればご連絡下さい。みんなが健康に過ごせる1年でありたいと思います。今年もよろしく願います。





新春雑感

介護老人保健施設「虹の丘」

施設長 喜入 厚

新年明けましておめでとうございませす。年を重ねるにつれ時の速さを実感したこの1年でした。

さてこの1年を振り返りかえりますと、まず頭に浮かぶ出来事はお正月早々の能登地方を中心に300名近くの災害関連死を生じた震度7の大地震です。そして翌日の能登に救援物資を運ぶ海保機と日航機の羽田空港での衝突炎上で5名の尊い命が奪われました。また台湾でのM7.2の大地震、8月の宮崎の南海トラフ前兆とも思われる震度6の大地震が続き、さらに7月から9月の線

状降水帯を伴う土砂災害で各地で死者が出ました。特に我々奄美へ直撃した台風10号は速度がノロノロし、1週間近く船便が欠航となり、食糧難が続き、生活に大きな影響が出ました。また9月の能登半島の豪雨での災害は地震からの復興途中の住民への被害が大きく報道され、

地震と合わせると437人の死者が出た旨報道されました。このように大きな自然災害が続き、最近では防災訓練も全国各地で行われ、対岸の火事ではなくなり、緊張感が伴います。一方海外では、何といつても米国の新しい大統領演説中に銃撃されながら民主党候補を想定外に

比較的大差で2回目の大統領に当選しましたが、我が国の政治も自民党派閥の選挙資金パーティーを巡る裏金事件が発覚し、岸田首相の支持率も低迷、9月に石破首相が新たに誕生するも、10月27日の衆議院の解散総選挙で自公の与党が惨敗し過半数割れとなり、野党に言われるままの体たらくを見ている思いです。いよいよ本年7月の参議院選挙が自公にとつての大きな試金石となるでしょう。

さて世界に目を向けるとロシアのウクライナ侵略は継続し、北朝鮮がロシアに多くの兵を送るなど戦況はますますエスカレートしており、ここでトランプが選挙運動の演説内容の「自分が大統領になったらこの戦争を24時間以内に終結させる」が実現するか注目したい。またプーチンと並んで戦争犯罪に問われているネタニ

ヤフのイスラエルも連日ガザ、レバノン、ハマスへの空爆が続き、多数の子供、女性を含む民間人が犠牲になっており、さらにイランがイスラエルへの報復攻撃を行い、戦争になりかねない状況である。さて、明るいニュースは何といつても大リーガー大谷の活躍である。8月に大リーグ史上初めての43本塁打、43盗塁を記録し、最終的には54本塁打59盗塁を記録、指名打者として初のMVPを2年連続3度目の受賞となり、アメリカおよび日本でも新聞の号外が出るなど日本人の大きな誇りとなった。またパリ五輪が開催され、柔道、体操など海外での金メダルとしては史上最高の20個の数に沸いた年であった。さらに大相撲で3月に尊富士が新入幕でいきなり110年ぶりの初優勝に輝き、感動的であった。

また社会は少子高齢化がますます進み生産年齢人口の人口減に伴い、夕クシーの運転手不足によるライドシェアが4月から都市部で開始された。さて、当施設の昨年を振り返ると職員不足によるサービスの提供が大変厳しくなり、予算の計上も低く見積もらざるを得なくなり、昨年までは新型コロナ禍にてデイケアや入所の利用を一時止めざるを得ない状況であったが、新型コロナウイルスも1昨年5月に5類になって、昨年9月より、クラスター感染が皆無となり、本年度は地域の高齢者をコロナ前(数年前)のように利用して頂けるように他施設や医療機関との連携を密に図る必要がある。また職員の仕事がしやすい環境を目指して、現在施設の各階に入浴施設を建設中で5月完成予定である。

(4面へ続く)

また全国的に介護DXなる言葉を目にするが、介護DXとは「介護現場にロボット、AI、ICTのデジタル技術を取り入れ、介護業務のワークフローを変革し、利用者と職員を笑顔にする」と言われる。さらに具体的には職員の確保（離職率の低減）と制度対応（LIFEをはじめとする）である。記録業務をデジタル入力し、適切な介護ソフトとの連携ができていれば普段の記録やモニタリングからほぼ自動的にLIFEデータが生成されるようになる。経営的に言えばLIFE加算の取得は介護事業所の運営にとって死活問題である。

2024年に介護

職員が69万人不足が推計されており、今後介護情報の共有化の必要性がますます進むことを考慮すると介護に携わる者はこのデジタルの流れをいかなす必要がある。また職員間のコミュニケーションを図る時間も増え職員の離職予防につながると思われる。さらに老健のLIFE関連加算の算定割合は高い水準で推移している状況であり、有用性の高いフィードバックを得るために「ICFステージ」の活用が推進され、生活機能の状態を、介助量ではなく残存機能で評価する加算の要件が報酬改定となつている。

一方、我が国は豪雨、地震、台風などによる自然災害が毎年頻発しており、ましてやコロナ禍の収束が見えない状況にある。そのような突発事故が発生しても、事業を継続できるようにBCP（業務継続計画）策定が2024年4月より介護サービス事業者すべてに向けて義務化されている。近年我が国でも介護サービスの提供そのものに直接大きな打撃をもたらす事象が増えており、そのような状況下で、要介護者や介護家族にとって必要不可欠な生命線である介護サービスが途切れてしまわないようにBCP策定の見直しが必要である。

さて施設類型で超強化型を維持する一方医療面で所定疾患施設療養費の算定が従来の疾患に加え、蜂窩織炎、帯状疱疹の内服も含められ、しかも算定日数が7日から10日に延長され、診断には医学的検査が不可欠とされたが、我々の施設でも大きな収入実績につながっている。おそらく2025年完成を目標とした地域包括ケアシステムに資する加算といわれ、そのシステムの

コアは医療・介護・福祉の連携と協同である。その中で、認知症ケア、多職種連携、看取り等すべて地域包括ケア推進のための重要な要素となり、我々老健は尚一層、在宅復帰・在宅療養支援に向かって機能する中核施設にならなければならない。

さて、今年は十二支の巳年にあたり、蛇は神聖な生き物として認識され、たくましい生命力があり、脱皮をするたびに表面の傷が治癒していくことから医療・治療・再生のシンボルとされており、医療介護の仕事に携わる職員にとってやりがいのある1年になる可能性がある。虹の丘も創設から早いもので30年目に入りましたが、今まで培ったきた施設内のそれぞれの職種の更なるスキルアップを図り、これまで同様、地域・家族・利用者に信頼され、愛される質の高いサービスを提供する施設を目指します。本年も昨年同様、大島郡医師会の先生方にはご指導、ご鞭撻を宜しく願います。





年頭のあいさつ

社会福祉法人 蒼寿会

養護老人ホーム なぎさ園

施設長 渡 寛之

新年あけましておめでとうございます。お健やかに新年を迎えられたこととお慶び申し上げます。今年も引き続きなぎさ園運営へのご理解・ご協力をよろしくお願い致します。

昨年を振り返りますと、元日から能登の大地震・津波の衝撃的な報道がありました。新年を祝っている最中の映像に皆さんも心を痛めたことだと思います。また半年後には同じ能登で豪雨災害もあり被災地域にとっては大変な年になってしまいました。亡くなられた方々のご冥福と一刻も早い復興をお祈りいたします。奄美では14年前の平成22年10月に「50年に1度」と言われた豪雨災害がありました。況や昨年11月の沖永良部・与論の大雨などをみると

いつまた同じような事が起きてもおかしくはないので日頃から災害への備えが不可欠だと思えました。

能登の災害だけでなく、1月2日には羽田空港で日本航空と自衛隊機の飛行機の衝突事故がありました。正月からショッキングな報道が立て続けにあり日本中が暗い雰囲気になったと思われま。亡くなられた自衛隊員5名の方は誠に残念でしたが、日本航空側は全員無事だったのがせめてもの救いだっと思えます。これは搭乗員の日頃からの訓練の成果でもあり、日本人の気質が主な要因だったのではないかと思います。この事故から学ぶことは、日頃の訓練はもちろんのこと常にリスクを想定した行動を心がけ非常時にも慌てることなく対処・行動することが重要であると痛感致しました。なぎさ園では毎月火災を想定した訓練や津波を想定した訓練を実施して

います。が今後は訓練の精度を高めつつ常に緊張感をもって取り組んでいきたいと思えます。

暗いニュースが続きました。が、オリンピック・パラリンピックでの日本選手団の活躍や大谷翔平選手の記録を塗り替える活躍などスポーツの分野では日本を大いに沸かせてくれました。なぎさ園の利用者もテレビに釘付けになって応援しており、事務所に来ては「大谷また打ったよ!」「大谷勝ったよ!」と興奮しながら教えに来てくれ一緒に喜んでいたりしていました。今年も明るい話題で入所者と一緒に喜ぶ日が1日でも多くあることを願っております。

さて、世界をみるとウクライナ侵攻はまだ続いており、イスラエル・ガザの紛争も勃発してしまいました。遠い日本へも毎日のように戦況を伝えるニュースが流れ憤りを感じています。今度就任したアメリカの大統領には終結に向けての働きかけを期待するところでは。

ウクライナ侵攻後から始まったエネルギー資源不足や食料不足による物価高騰の波

は収まる気配すら見えず家計や日本経済を圧迫しています。大幅な最低賃金引き上げでも追いついていない現状だと思えます。年金暮らしの入所者にとつても深刻な問題であり、買い物が好きな方やその入所者を支援するご家族からは悲鳴が聞こえてきそうです。なぎさ園の運営でも入所者に利用する介護用品や日用品が軒並み値上がりしており業務の見直しを迫られているところです。特に食材の高騰が顕著でかなりの影響があります。入所者の食事の質を落とすわけにもいかず頭を悩ませているところでは。

したりして人手不足をカバーしているところもある。で近い将来はなぎさ園もそれらを視野に入れ運営していくことが必要になってきました。

また日本全国でもそうですが、労働者が不足しているのも喫緊の問題として考えていかなければなりません。幸いにも当園は何とか維持出来ている状況ですが、スタッフの高齢化が進んでおり数年後には明らかに不足することが予想されます。奄美の人口減少にも歯止めがかかっていない状況です。ので求人募集してもほとんど集まらないのが現状です。他の施設ではすでに外国人の技能実習生の導入が進んでいたり、給食も外部に業務委託

最後になりましたが、今年も皆様のご多幸となぎさ園入所者の安心・安全で楽しく過ごせる事を祈念して挨拶と代えさせていただきます。

令和6年度 第2回定時理事会

令和6年度第2回理事
会が、去る10月28日(土)
午後6時から医師会館4
階にて開催され、嘉川副
会長の開会宣言に続き稲
会長が以下のように挨拶
されました。

「こんばんは、今日は定
時理事会にお集まりくだ
さいまして有難うござい
ます。皆さんに報告しな
ければいけない事が多々
ありますが、先日10月24
日に第2回郡市医師会長
会が開催されました。そ
の中で先日大島郡医師会
でも救急当番のことが出



ましたが、他の医師会でも中
核病院を持っていないことで
域外の所に回される事が多
く、隣の回された医療圏の病
院が少し困っているようなこ
との報告がありました。大島
郡医師会でも会員の先生から
土日、休日の輪番制の提案が
ありました。今現在救急告示
病院としての県立大島病院、
奄美中央病院、徳洲会病院の
土日・休日の状況がまだ把握で
きていなくて、今調べている
ところです。それで医師会と
しても何か以前のように輪番
制なり何なりしないといけな
い時には皆さんの協力を得て
開始することも念頭に置かな
いといけないのかと考えてお
ります。

県立大島病院の森田先生か
ら、今年の年末年始は最大9
連休となることから救急外来
とは別に総合診療科による発
熱外来も状況に応じて設置し
たいとの話があり、医師会と
してもできるだけ連休期間中
の空白が無いように埋めてい
きたいと思っっていると
すが、各医療機関それぞれ事

情があると思いますので、アン
ケートを出したいと思っていま
す。その際にはよろしく願ひ
します。

ベースアップ加算について加
算を取っている診療所が3割程
度。医師会としては7割を目標
としていいることから加算をつけ
ても実施してなければ今回の診
療報酬改定で削られる可能性が
あるということ。11月2日には
郡市医師会長懇談会(県医師会
は除く)が開催予定で、その中
の議題で報酬改定が0.8%アップ
したが、実際のところはいろん
な基準があり、なかなかクリア
できない。他の特に内科の方か
ら逆に減算になるのではという
話もあるとのことで、状況を把
握して県の医師会を通して、日
本医師会へ提言する予定になっ
ております。その辺について
もアンケート等のアナウンスが
あるときはご協力よろしく願
いします。今日は審議が一つ上
がっております。最低賃金改正
による就業規則の変更に関する
件についてのご審議の程よろし
くお願いいたします」と挨拶し、そ
の後会長を議長として議案審議
に入った。

【協議事項】

(1) 第1号議案 最低賃金改
正による就業規則(職員賃
金規定11条に定める給料
表)の変更に関する件

【報告事項】

- (1) 上半期(第2回理事
会開催日まで)事業
報告《津畑庶務担当
理事》
- (2) 各業務担当理事から
の報告について《各
担当理事》
- (3) 大島郡医師会事業所
の経営改善に向けた
今後の取り組みにつ
いて《坂元大島郡医
師会事務局次長》
- (4) 宇検村診療所建設の
進捗状況について
《坂元大島郡医師会
事務局次長》

協議事項1号議案の結
果については、事務局か
ら提案された職種ごとの
基本給・初任給の改定案が
承認された。報告事項(2)
では、生涯教育担当理事
から学術講演会のテーマ
をMRの方からだけできな
く医師会側からの希望が
あれば出してもらいたい
旨の報告があった。(3)
について、病院だけでき
なく、虹の丘双方の経営方
針を明確にし、体制を組
んでやったほうが良いと
の意見があった。以上18
時40分に嘉川副会長が閉
会を宣言し終了した。

謹 賀 新 年



公益社団法人
大島郡医師会

会 長	稲 源一郎	副 会 長	嘉 川 潤一	理 事	向 井 奉文	宮 上 寛之	朝 沼 榎	益 田 正隆	野 崎 義弘	津 畑 修	碩 伸 一朗	徳 田 英弘	町 田 実豊	岩 城 陽一	郡 山 昌敬	大 野 郁夫	岡 村 誠	監 事	大 野 郁夫
-----	-------	-------	--------	-----	--------	--------	-------	--------	--------	-------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	-------	-----	--------

医師会病院院長	満 純 孝	虹の丘施設長	喜 入 厚	なぎさ園園長	渡 寛 之	名 城 辰 郎	医師会事務局長	名 城 辰 郎
---------	-------	--------	-------	--------	-------	---------	---------	---------

地域枠学生と、出身地首長、行政、医師会との意見交換会

鹿児島大学医学部に「地域枠」で入学された学生・卒業医師と出身地首長・郡市医師会等との意見交換会(大島南部地区)が12月14日に鹿児島県医師会館にて開催されました。

鹿児島県、鹿児島大学病院地域医療支援センター、鹿児島県医師会の共催によるこの意見交換会は、県内各地で行われてきましたが、奄美群島は12市町村から成り広範囲にわたるので、北部(奄美大島、喜界島)、南部(徳之島、沖永良部島、与論島)の2回に分けての開催となり、今回は、南部の出身若手医師3名(天城町・伊仙町・和泊町出身)、医学部6年生1名(与論町出身)、2年生(和泊町出身・伊仙町出身)2名、他1年生から6年生の4名(鹿児島市近郊出身)が参加されました。

冒頭、県医師会の牧角会長は11月の与論島での豪雨被害に対するお見舞いの言葉を述べられた後、「県内各地で開催してまいりましたこの意見交換会も今回で11回目となり、平成29年12月に垂水市と肝付町を皮切りにスタートし途中コロナ禍で一時的に中断しましたが、何とか足掛け8年をかけて県内全市町村を対象に開催



することができました。」と感謝を申し上げ、「若い学生さんが医療に何を求め故郷の医療の現状をどう理解しているのか、地元の首長さんは、若い学生に何を期待しているのか、医学生の皆さんと膝を突き合わせて地域医療の将来を語りたい、そんな思いを具現化したのがこの意見交換会です。地域枠の学生さん方には率直な意見を語って欲しいし、各首長さんには、地域の現状と若い医師への期待を話していただきたい。本日の会がお互いを知る機会になり、学生さんや卒業医師の皆さんが地域医療にかかわりたいという気持を持っていただく契機になれば幸いです。また「故郷の地域医療を語ろう」という集まりは今後ますます重要になってくることであり、今後も各地区で継続して開かれることを願います。」と挨拶されました。

各地域から出席された首長からの挨拶では、それぞれの地域の紹介、医療・介護・福祉の事情の説明があり、多くの首長が「是非、医師として経験を積まれた後には、地元の医療を支えていただけられるようになってもらいたい」という思いを込めてお話しをされていたのが非常に印象的でした。

また、「大島郡の地域医療の現状について」と題した講話の中で、郡医師会の稲会長が徳之島、和泊町で開業されている町田先生が沖永良部島、古川先生からパナウル診療所を引き継ぎ開業された小林先生が与論島について講演されました。稲会長は、開業医の先生が減少していることで、地域を支える学校医、産業医、嘱託医等を受け負うことが次第に難しくなっている現場の窮状を訴えました。また今後在宅医療が増えることが考えられ、かかりつけ医となってくれる医師が必要であり、かかりつけ医と中核病院の医師との連携が地域には大事なことであることを強調しておられました。中核病院に軸足を置きながら在宅医療にも興味をもってもらいたい。一人で飛び込むのが不安であれば数人でグループを組むやり方もあるのではという話もありました。町田先生からは沖永良部での地域医療の状況について「医療機関、行政、多職種との連携が上手く取れており、風通しもよく充実度は高い。今後若い先生が開業を希望されるのであれば、力になってあげたい。」との話でした。埼玉県出身である小林先生からは自己紹介を交えながら与論島の紹介と2021年3月に閉院されたパナウル診療所を1年3ヶ月後に再開された経緯や開業からこれまで約2年半の経験や医院の状況をスライドで紹介しながら分かりやすく説明されました。



その後、2つのグループに分かれて意見交換が始まり、「産婦人科医を希望しているが生まれ育った島で出産ができないというのは今後島の発展が想像できないという思いから将来開業したい」と話された先生もおられました。意見交換会の最後には、鹿児島県医療審議監の中俣先生が地域枠医学生や出身医師の若い先生方が地域で活躍してもらうためにも是非この会を各地域で継続的に開催していただきたいと挨拶されました。

地域枠制度は、県内の医師数が全体では増加しているものの鹿児島市内に集中し、いわゆる「医師の地域偏在」の状況にあることから、離島・へき地などの地域医療を守るため、地域医療に従事する強い意志を持つ医学生への修学資金を貸与することを目的として平成18年度に始まった制度です。

【第62回地域包括ケア交流会 ※偶数月第4月曜開催】

テーマ:「地域医療連携室について」

開催日時: 令和6年10月28日(月)18時30分～20時 於: 大島郡医師会館4階ホール

1. 講話:「奄美における地域連携」

講師: 県立大島病院 地域医療連携室 羽月 久実 副室長

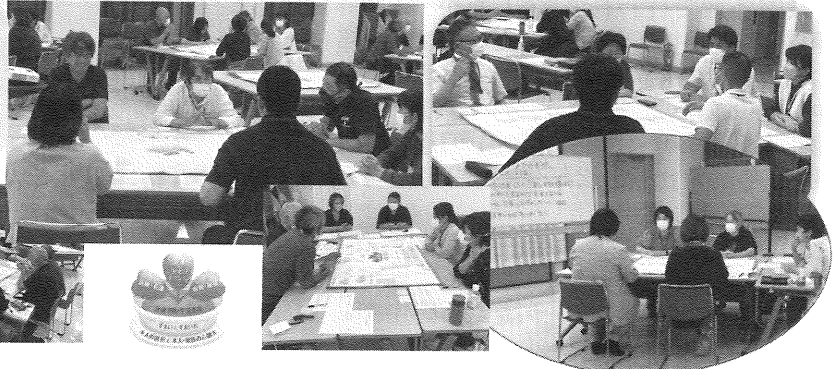
2. 植木鉢図を使った事例検討(グループワーク)

～事例をもとに、もっと知りたい情報、自分の役割について、連携したい機関や職種は?～



看護師で副室長の羽月さん

- ～講話内容～
1. 県立大島病院の概要
 2. 奄美群島の人口推移
 3. 地域包括ケアシステム
 4. 地域医療連携室
 5. 退院支援



令和6年10月28日(月)に第62回地域包括ケア交流会が開催されました。今回のテーマは「地域医療連携室」で、島内でいち早く連携室をスタートさせた県立大島病院の、地域医療連携室副室長 羽月 久実さんを講師にお迎えし、奄美群島における中核病院で救急医療の拠点であり、さらには地域医療支援病院として唯一無二の存在である県立大島病院における地域医療連携室の活動についてお話をいただきました。講話では、県病院での地域包括ケアシステムを意識した取組みの具体的内容、横の連携のひとつである「奄美地区地域医療連携室協議会」について等、説明していただきました。また、退院支援について事例を紹介していただきましたが、入院期間がそう長くない急性期病院という厳しい条件の中、「家に帰りたい」というご本人のお気持ちを大切にしながら退院カンファレンスやご家族との面談を繰り返し実現に至った事例や、奄美ドクターヘリで搬送されてこられた方が、フェリーでふるさとへ戻るために安全安心な状態で帰島できるよう、微に入り細に入りコーディネートされたその過程について教えていただきました。後半の意見交換では「頼れる人がいない方の退院支援」についてグループで事例検討を行いました。様々な職種や機関の方がそのお立場から活発な意見を交わされ、多職種で話し合うことの意義を改めて感じた時間となりました。

第7回 奄美大島・喜界島在宅医療・介護連携推進事業連絡協議会

令和6年11月21日(木)19時～20時30分 於: 奄美市役所5階会議室

テーマ:「身寄りがない方への支援について」

1. 在宅医療・介護連携推進事業報告

入退院時の連携率や、情報共有検討会、在宅医療連携支援研修会など資料紹介とともに報告



2. 事前アンケート報告※

医療と介護の連携した対応が求められる4つの場面

- 「日常の療養支援」
- 「入退院支援」
- 「急変時の対応」
- 「看取り」

アンケート結果を4つの場面に分類

どの場面でも課題があり、「入退院支援」は意見が特に多かった



開会挨拶 信島 浩司 会長 (瀬戸町内地域包括支援センター長)



司会 松元 三津代 氏 (笠利地域包括支援センター)

3. 意見交換:「身寄りがない方への支援について」

第7回奄美大島・喜界島在宅医療・介護連携推進事業連絡協議会(市町村事業)が開催されました。この会は名瀬保健所管内において医療と介護の連携を推進し地域包括ケアシステムを構築して地域住民の福祉の向上を図ることを目的に設置されました。今年度も昨年同様「身寄りがない方への支援」をテーマに掲げ、これまでの事前アンケートの回答報告(※上段右参照)の後、各団体からの質疑応答、直面している困りごとや対応策の提案、また課題に対しての取組紹介など、医療介護分野を中心に様々な意見が交わされました。閉会の挨拶で稲会長は、身寄りがない方の孤独死の問題に触れ、望まない孤立・社会的孤立をなるべく避けること、10年20年先を考えながら経済や少子化の問題も含めて考える必要があり、今回の内容をフィードバックをかけながら今後活かしていくことが大切と述べられました。また、意見交換での発言に関連し、地域の機関を横断するようなりハビリテーションに関する情報連携の必要性にも言及され、会は終了となりました。



意見交換進行 浅尾 晋也 氏 (宇検村地域包括支援センター)



閉会挨拶 稲 源一郎 医師 (大島郡医師会会長)



今後の業務に思うこと

大島郡医師会病院

栄養管理室長
管理栄養士
帯屋 真由美

平成7年12月に「老人保健施設虹の丘」に入職し、早29年が過ぎました。

ひと昔前の栄養士の業務のイメージは、「現場内で一日を過ごす」という印象が強いのですが、現在は栄養士がベッドサイドへの訪問が重要で、なお且つ多職種との連携が必須ではないかと感じています。そんな中、虹の丘と医師会病院の人事交流の案が出され、令和3年4月より医師会病院勤務が命ぜられ私自身としては、管理栄養士になり初めての病院勤務となりました。同年4月より回復リハビリテーション病棟、介護医療院の開設など施設と違う環境の中で日々、業務を熟すことで2年の歳月が流れ、令和5年4月に、『栄養管理室長』という役職の辞令を受けました。過去にこのような役職も存在してなかった為に『何をどうすれば？』

と言う思いが正直な気持ちでした。

医療形態においての序列は、『治療』↓『リハビリ』↓『食事』のイメージですが、まずは食べることも重要な課題のひとつかと思えます。食べないと点滴や経管栄養になり、筋力低下によるリハビリ介入が難しい等の流れになるため、私たち栄養士は患者様やご家族に対して食に関する聞き取り等より細かに行い、出来るだけ食べられる物が提供出来るように対応することが重要ではないかと思っております。また、患者様に関わる職員の状態のフォローも必要ではないかと思えます。それは私自身も含めて、我々スタッフが元氣・健康でいないと患者様に対してパワー不足な対応になってしまふからです。そして今の現場の問題としては、調理師や管理栄養

士の人員不足という問題の改善を行うことが今一番の課題かと思っております。今後の目標としては、即改善できることではありませんが、今後は虹の丘との献立の一本化、調理工程の統一や時短勤務による人員確保（工程ごとの時間の配分などの将来を見据えた改善をやっていきたいと思っております。対外的においては近い将来、納入業者の高齢化により食材の未納や未確保も起こりうる問題とされますが、これは島全体で考えていかなければいけない課題かと思えます。何十年先の病院食がインスタント食品対応にならぬよう、将来を見据え動き出していかなければいけないと思っております。

様々な問題を抱えておりますが、定年まで残り数年は色々な課題に向け取り組んでいきたいと思っております。今後共々指導ご鞭撻の程、宜しくお願いいたします。

最後になりますが、患者様からの「ご飯が美味しかったよ」の言葉を励みに日々努力していきたいと思えます。

能登半島地震への義援金

大島郡医師会では、昨年4月から令和6年能登半島地震への災害支援募金箱を会員の診療所や病院窓口に設置させていただきました。結果、総額238,074円の募金が集まり、石川県医師会へ寄付させていただきました。長い期間に渡りご協力して頂いた先生方、職員の皆様方、患者様方に厚くお礼申し上げます。ありがとうございました。



令和6年12月16日、宇検村が令和3年から計画を進めていた国民健康保険宇検診療所(恵 浩一 所長)の建替えに伴う開所式が行われ、大島郡医師会からは会長の代理として名城事務局長が出席しました。

大島郡医師会は、令和3年12月から、新しい診療所建設に係る基本構想等を検討する「宇検村診療所建設検討委員会」に大島郡医師会会長が委員としてかわり、事務局員として「地域医療ビジョン×未来投資、勉強会の横田勝彦外部委員(宇検村医療連携アドバイザー・令和2年9月～)と山本勇一郎外部委員(診療放射線技師・医療情報技師・医用画像情報専門技師)が積極的に協力してきました。

昭和54年に建設された同診療所は、新たな機能を備え50年ぶりに一新され、今後の地域医療・介護を支える拠点として大いに活用されていくことが期待されます。

国民健康保険宇検診療所
新診療所が完成

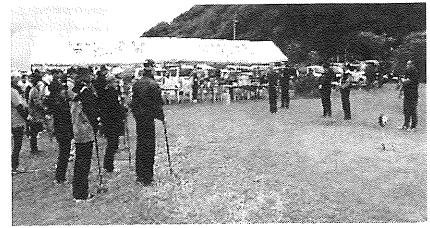
虹の丘だより

令和6年11月20日

地域支え合い協議体 グランドゴルフ大会

11月20日(水)午前9時から、知名瀬港公園前の敷地で、地域支え合い協議体主催の「グランドゴルフ大会」を開催。下方地区の各集落から約60名が参加しました。

下方地区地域支え合い協議体は虹の丘支援センター職員もメンバーに入り、体制作りへの協力を行っています。今回は施設から3名の職員が地域貢献活動の一環として参加協力し、大会を盛り上げました。



くわっくわっとゆらおうデイ

令和6年11月6日

11月6日(水)朝仁保育園園児が来所し、各階で「くわっくわっとゆらおうデイ」を開催しました。朝仁保育園の年長さん16名が各階に分かれ、入所者共に風船バレーやボール回し等のレクリエーションに参加、子ども達の元気なダンスも披露され、入所者様へ笑顔をお届けしました。

龍郷町懐メロ同好会 慰問

令和6年11月2日

令和6年11月2日(土)「龍郷町懐メロ同好会」の皆様が虹の丘へ慰問にお越し頂きました。「龍郷町懐メロ同好会」は、ボランティアで活動させているビッグバンドです。初めての訪問ということもあり、職員も入所者様も楽しみにしていました。そして演奏が始まると、ドラムやトランペット、アコーディオンなどの生演奏の迫力と、そこから流れる懐かしの昭和の名曲の数々に入所者様も一緒に歌ったり、手をたたいてリズムをとったりと、みんなで大いに盛り上がりました。最後は六調をみんなで踊り、入所者様も「とても面白かった!」と興奮ぎみに感想をおっしゃる方もおられ大満足の様子でした。「龍郷町懐メロ同好会」の皆様、素敵な歌と演奏をありがとうございました。



なぎさ園だより

運動会

令和6年10月13日



10月13日、運動会を開催しました。当園恒例の聖火リレーで幕を開け、競技が始まると普段からは想像できない程の集中力で真剣に取り組んでおりました。応援にも声が出ていて、マイク実況が聞こえない場面が多々ありました。ご家族も参加され、笑いにあふれた楽しい運動会が行われました。

前崎チヅエさん
百歳表彰

令和6年12月8日

12月8日、奄美市より前崎さんの百歳表彰並びにお祝い金授与式のため奄美市長以下3名の職員と家族5名が来園されました。食堂前ホールで授与式を行いました。ご本人緊張しており終始表情は硬かったが、他入所者やご家族にお祝いされ喜んでいました。授与式後の記念撮影ではホッとされたのか笑顔がこぼれていました。





奄美の薬草

薬草研究

奄美の自然を考える会顧問 田畑 満大

<ハマスゲについて>

ハマスゲと言えば、どんな事が思い浮かぶでしょうか？畑の中に生えている厄介な雑草の事かな？そうです。そのハマスゲについて話してみたいと思います。

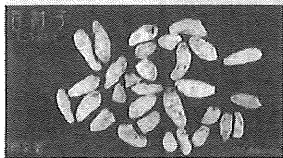
この植物の戸籍上では、カヤツリグサ科カヤツリグサ属ハマスゲです。各地域集落で、方言名も違いがあります。コーブシ、コウブシ、ブクィ、ホブシ、ホブシなどと呼ばれています。方言名が分かってくるまで、ほとんどの皆さんが本当に畑の厄介者だという事をご存じだと思います。

本州から九州、琉球列島にかけて、国外では世界の熱帯から温帯に広く分布しています。薬草としては古くからよく知られたもので、正倉院の薬物中からも未使っているとのこと。生薬名として、香附子「コウブシ」と呼ばれています。秋から翌春にかけて肥大した根茎を掘り取って乾燥させたものを用います。

ここからは文献類でハマスゲの紹介をします。「沖繩の薬草百科」多和田真淳、太田文子著では、「薬効」として①子宮内膜炎②帯下③頭痛④解熱⑤妊婦の食欲増進、【使用方法】①②③④⑤は共通、1日分沸騰させた水(1リットル)に、ハマスゲの前走の乾燥物ひとつかみ(15g)を入れ、水が半分になるまで煎じ1日3回服用するということです。

次に、「これでわかる薬用植物」中田福一、中田貴久子著、【搾取】秋に球茎を採りそのまましばらく乾燥して、火にあぶりひげ根を焼きとりよく乾燥した暗褐色のものが薬用部分の香附子です。漢方薬に使われるのは中国輸入が大部分です。【成分】精油分1%のうちキベレン32%、キベロール49%、アルファピネン、シネオール及び糖質、脂肪油を含む。【作用】通経、鎮痙(婦人薬)健胃。【どうして効くか】キベレンには血管拡張、子宮収縮をするプロスタグランジンE2の生合成を阻害する働きがあり、その結果子宮収縮を和らげる事で、鎮痛、鎮痙作用を現します。香附子の煎液は、更年期障害、ヒステリー、胃炎、十二指腸潰瘍などに用いられます。漢方では香蘇散(コウソサン:胃腸虚弱の人の風邪の初期)、五積散(ゴセキサン:胃腸炎、更年期障害)、女神散(ニョシンサン:産前産後の神経症)、川弓茶調散(センキュウチャチュウサン:風邪、血の道)等。

「原色牧野和漢薬草大図鑑」北隆館では【薬用成



分】塊茎(香附子・コウブシ)局。10月~11月に根茎の肥大部のみを搾取し、日干しにする。【成分】精油成分として、キベレン、β-セリエン、α-キペロン、パクレノンなどを含む。【薬効と薬理】鎮痛作用及び子宮筋を弛緩(シカン)させる左用が知られている。月経不順、生理痛、高年期障害、ヒステリー、慢性胃炎、十二指腸潰瘍、神経性胃炎などに広く用いられる。月経過多には用いられないとされている。【使用法】1日5~9gを煎服として内服する。【その他】塊茎以外にも地上部の全草を「莎草」(シャソウ)と呼び薬用にもすることもある。胸のつかえ、皮膚のかゆみの際は、煎剤として1日15~25gを内服し、各種のでき物には生のままつき砕いて患部にはると言うことです。

次に熊本大学薬学部薬用植物園植物データベースより、【薬用部分】①根茎②種子、成分として、セスキテルペン(cyperol, cyperene, sugetriolなどを化学構造式で表しています)。奴と用途では、根茎は歯痛、通経作用があり、頭痛、筋肉痛、腰痛、肩こり、月経不順や月経痛、気分の塞がり、イライラなどに用いる。漢方処方では、香蘇散、川弓茶調散、香砂平胃散などに配合される。また、歯茎の腫れや出血には種子の粉末に食塩を混ぜて歯茎をマッサージする。救荒植物として肥大した根茎を澱粉原料にして食した記録もある。かつて熊本県でも相当量が出荷されていた。繁殖力が強く除去しにくい事から、畑の害草として知られると紹介されています。

さらに「ウィキペディアフリー百科事典」でハマスゲの生薬についての紹介をすると、漢方では芳香性健胃、浄血、通経、鎮痙の効果があるとされる。成分としては精油0.6~1%を含み、これにはα-キペロン、キベロール、インキペロール、キベレンなどが含まれる。現在は主として中国、韓国、北朝鮮、ベトナムからの輸入にたよっている。香蘇散、女神散などの漢方方剤に配合される。民間療法では、根茎を乾燥させてお茶にして飲用する方法が知られている。同じ資料の中で、2000年前にスーダンで暮らしていた人々の遺骨の分析から、当時の人々はハマスゲを食べていた事がわかった。また、彼らは驚くほど健康な歯を持っており、それはハマスゲの抗菌作用による可能性がある事が示唆されたと紹介されています。

以上、ハマスゲの成分と効能について見てきました。内容が時代によってより科学的に実証されつつあるようです。皆さんは、より良い資料を見つけ参考になさる事をお勧めいたします。農家の耕作地では、厄介な雑草で嫌われものです。ある集落では「クサダニムン」と言いますが、嫌われ者でも薬草として役立つものですね。畑からは追い出さないといけないが、その草がなくなれば薬草として使えない。いたし痒いですね。さあどう考えれば良いでしょう。皆さんで考えてください。

学術講演会・研修会等のご案内

- ◆1月16日(木)18:30~19:50 ※ハイブリッド開催 大島郡医師会館
【ガンマナイフ学術講演会】Elekta(株)との共催
座長：稲医院院長 稲 源一郎
一般講演「当院におけるガンマナイフ治療をめぐる地域連携」
演者：県立大島病院脳神経外科部長 米永 理法
特別講演「進化するガンマナイフ治療 -Elekta Esprit への期待-」
演者：今村総合病院ガンマナイフセンター長 八代 一孝
- ◆1月16日(木)18:45~20:30 ※ハイブリッド開催
宮上病院・朝戸医院・龍美クリニック
【令和6年度 第1回糖尿病重症化予防連携強化研修会】一日医認定産業医研修会一
- ◆1月18日(土)15:00~18:00
大島郡医師会館・宮上病院・朝戸医院・龍美クリニック
【第12回死体検案・身元確認業務等研修会】
- ◆1月24日(金)19:00~20:30
【令和6年度 鹿児島県小児在宅医療推進研修会】(Web)
- ◆1月29日(水)19:00~20:00 ※ハイブリッド開催 大島郡医師会館
【大島郡肺癌連携の会】中外製薬(株)との共催
座長：奄美中央病院呼吸器内科 堀 昭作
特別講演「いま呼吸器外科でできること」
演者：県立大島病院呼吸器外科部長 大塚 綱志
- ◆1月31日(金)19:00~20:00 ※ハイブリッド開催 おきえらぶフローラルホテル
【疼痛診療セミナーin沖永良部】第一三共(株)との共催
座長：福山医院院長 上園 敦子
特別講演「いま呼吸器外科でできること」
演者：鹿児島大学病院糖尿病・内分泌内科特任講師 有村 愛子
- ◆2月5日(水)19:00~
【大島郡医師会学術講演会(仮)】田辺三菱製薬(株)との共催予定 ※企画中
- ◆2月7日(金)18:30~
【認知症カンファレンスin奄美(仮)】エーザイ(株)との共催予定 ※企画中
- ◆2月14日(金)19:00~
【大島郡医師会学術講演会(仮)】沢井製薬(株)との共催予定 ※企画中
- ◆2月15日(土)18:30~20:30 アマホームPLAZA(奄美市内)
【大島地区日医認定産業医研修会】(実地・更新 各1単位)
- ◆2月22日(土)14:00~
【令和6年度 かかりつけ医うつ病対応力向上研修会】※予定
- ◆2月25日(火)18:45~
【令和6年度 第2回糖尿病重症化予防連携強化研修会】一日医認定産業医研修会一※予定
- ◆2月28日(金)19:00~
【痛み・骨について考える会(仮)】第一三共(株)との共催予定 ※企画中
- ◆3月8日(土)18:30~
【令和6年度 在宅医療連携支援研修会】※予定
- ◆3月11日(火)18:45~
【令和6年度 鹿児島県医師会医療安全対策研修会】※予定
- ◆3月12日(水)19:00~
【救急におけるてんかん診療セミナーin奄美(仮)】エーザイ(株)との共催予定 ※企画
- ◆3月14日(金)19:00~
【CKD診療セミナーin奄美(仮)】アストラゼネカ(株)との共催予定 ※企画中

奄美の医療雑話

(66)

『太陽の光の大切さ』

家の中まで太陽が照り込む家は空気がきれい

元名瀬市立奄美博物館長 林 蘇喜男

奄美大島の諺の中に「テイダ
ヌイリユン ヤーチャ イシヤヤ
ホツカラン」と、あります。訳
してみますと「太陽が入る家には、
医者は入ることがない」となりま

るのは、太陽の光が入らないので
保健上の事を言っているように
す。太陽の紫外線は、殺菌力があ
るので、畳・寝具・衣類・食器な
どが消毒になり、ぎょう虫(注)
も死ぬので、家の彩光を考えた間
取りも必要であります。次に紫外
線は、体内で骨や歯に必要なカル
シウムと関係深いビタミンDを
作ります。
更に、紫外線療法として皮膚
病・くる病・結核などの病気の治
療には日光浴が良いと言われてお
ります。ただし、昼間の直射日光
は、日光浴がいいからと言って長
時間には気をつけることが必要
です。太陽の光は、朝・昼・夕方
の光を入れることと適当な日光
浴は、健康のため必要なことに
なります。(注)ハダシ 線虫
網蟻虫科の袋型動物。体は糸状
で、体長約一センチ。雄の方が
小さい。人間の盲腸などに寄生。
雌は夜間に肛門からはい出して
周辺に卵を産みつける。肛門周
辺部の不快なかゆみがあり、虫
卵は経口的に摂取される。(参考
文献・シマのことわざ) ムンヌシ
リハテヤネン 日高潤郎著

編集後記



明けまして
おめでとうございます。大
島郡医師会だ
より第104
号をお届けし
ます。◆昨年元
旦に発生した
能登半島地
震。9月には
台風14号からの温帯低気圧や活発な秋
雨前線などが重なり記録的な豪雨。1
年に2度も甚大は災害に見舞われた被
災者の皆様のご健康と、一日も早い復
旧をお祈りいたします。◆大島郡医師会
では、会員の先生方の診療所、病院窓
口に震災支援募金箱を設置していた
き20数万円の寄付をすることができま
した。ご協力ありがとうございました。
◆稲会長の挨拶文にもありましたが、
今年には団塊の世代が後期高齢者とな
る2025年を迎えます。次は2040
年問題と厚労省の推計では介護職員の
必要数が2022年の215万人から
57万人増の272万人が必要になると
いわれています。また、今年度厚労省
は介護職員の不足を受け、東南アジア
での介護人材の獲得を強化、現地で採
用活動をする事業者への補助など高齢
化の進展で介護が必要な高齢者が増え
るため、外国人材の受け入れに戦略的
に取り組むという記事がありました。
我々医師会事業所でも今年初めて特定
技能実習生3名(介護職員)を受け入
れる予定になっておりますが、今後恒
常的な受け入れ態勢を構築していかな
ければならなくなるのではと思ってい
ます。◆昨年一年間、会員の先生方、
医師会各事業所職員の方々には執筆を
お引き受けて頂きましてありがとうございました。
今年もどうぞよろしくお
願いたします。(医師会本部・N)